

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ う思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切に作る心、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進については、三者ともに肯定的意見が8割を超えていた。また自ら学びに向かう教育の推進については、三者ともに8割程度肯定的な意見が見られたが、「そう思う」と回答した割合については、三者ともに3割を超えていなかった。今後、学校生活を送る中で、子どもたちに委ねる場面を増やしていく必要がある。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストレイ(中学校)など)		保護者、教職員ともに、肯定的意見が9割であった。一方で、児童生徒については、肯定的意見が6割程度と差が見られた。子ども議会や校則見直しなどの取り組みを今年度も行ってきしたが、児童自らが課題をもち主体的に行動する取組をさらに進める必要がある。今後は、児童会活動や学級活動、総合的な学習の時間を充実し、学校生活や地域での生活をよりよくするための実践を行ってきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実		
学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、子どもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	二つの設問ともに、肯定的な意見が7割を超える結果であった。しかし、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりする授業づくりという点では、保護者の肯定的意見が児童・教職員と比較して低かった。「個別最適な学び」「協働的な学び」について、子どもや保護者、教職員での共通理解が必要だと考えられる。今後は、三者で共通理解を図りながら授業実践ができるよう、授業参観等で公開したり研修を通じた授業改善を行ったりしていきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	どちらの項目も肯定的な意見が8割程度と高い評価だった。一方で、教職員の数値よりも、保護者・児童の数値が低くなっている。保護者には学校の取り組みをこれまで以上に啓発し、児童には、交流学习やインクルーシブ教育といった学び合いの価値づけをさらに行っていく必要がある。

(3) 最適な教育環境の整備

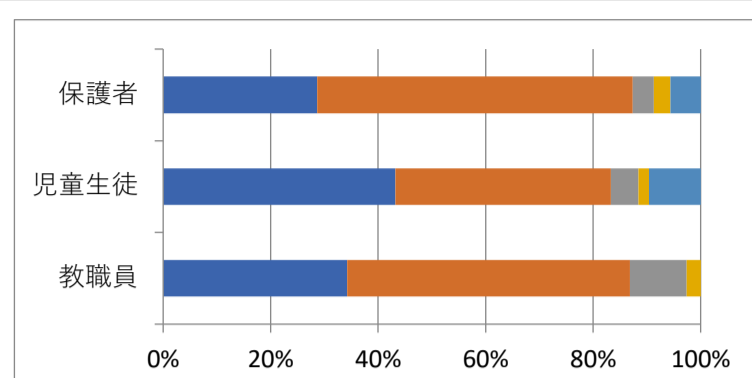
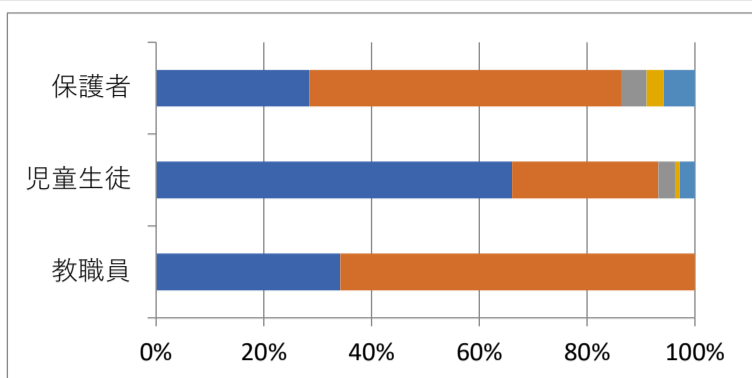
8 安全・安心な園づくりの推進

9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

安全・安心な園づくりの推進について、昨年度は保護者の肯定的評価は8割ほどであったが、今年度は9割を超えていた。安全点検を複数人で行ったり、児童の安全教育に学校全体で取り組んだ結果と考えられる。また地域や家庭と連携した教育環境の整備について、3者ともに肯定的意見が8割を超えていた。しかし教職員のどちらかといえ、そう思わないという回答が11%と少し高いことから、さらに家庭・地域と連携した教育を図る必要がある。

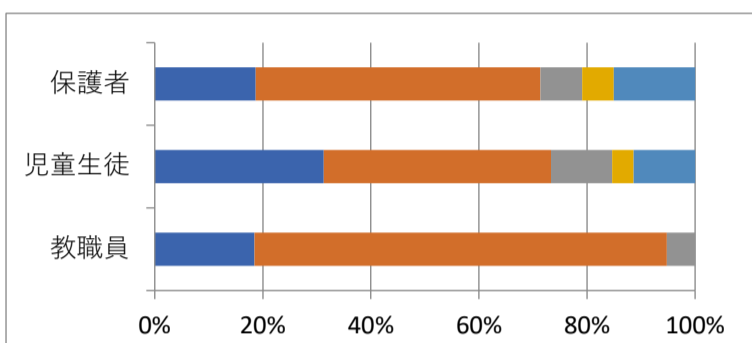


(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

肯定的意見の割合が、教職員では、9割を超えていたが、保護者や児童生徒では、7割程度であった。今後、こどもの人権に関して、教職員の意識向上を図るとともに、児童・保護者が相談しやすい学校づくりに職員全体で取り組む必要がある。今後は、人権学習の取り組みや学校の教育相談体制について、保護者に啓発を図りながら、支援体制の充実に努めていきたい。



独自項目

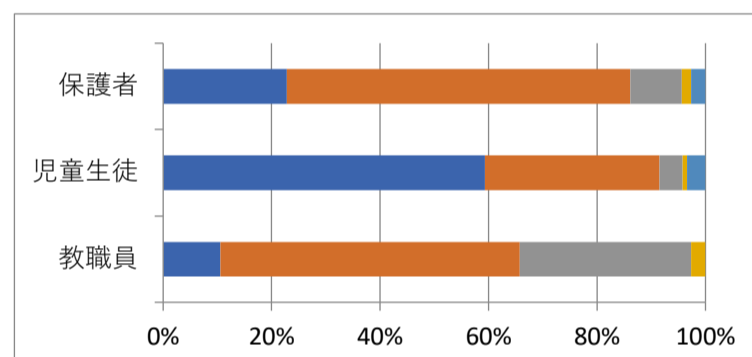
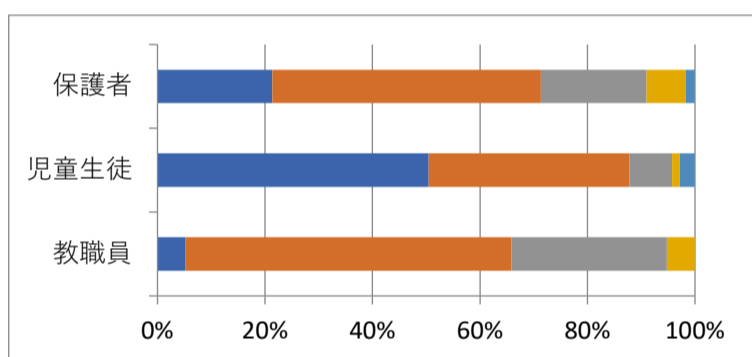
独自項目1

独自項目2

子どもは進んで明るいあいさつができていますか。

子どもは、学校のきまりを守り、安全に生活することができていますか。

明るいあいさつに関しては、ほぼ9割の児童が「自分からあいさつができています」と肯定的に回答しているのに対し、教職員は3分の2ほどしか肯定的な回答が得られなかった。保護者は昨年度の評価とほぼ同程度であった。きまりを守ることに関しては、児童や保護者は9割近くが肯定的に回答しているが、教職員は3分の2が肯定的に回答しているにとどまっている。これからは保護者との連携を密にし、児童にきまりを守ることの意識を高めるよう教職員全員で共通実践を図っていききたい。



来年度の具体的な取組について

- 子どもが主体的に取り組む授業づくりを進めるとともに、児童会活動や生活のきまりなど、学校生活を送る中で、子どもたちが自ら課題を見つけ解決している場面を増やしていく。
- 総合的な学習の時間を中心に、地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりする活動を積極的に取り入れていく。
- 「個別最適な学び」「自ら学ぶ姿」について、教職員、児童、保護者でイメージや共通理解を図りながら、授業実践ができるよう研修を通じた授業改善を行う。
- 交流学习やインクルーシブ教育の意義について、学校行事や授業参観、学級懇談会を通して、児童や保護者に啓発を図っていく。
- 安全と事故防止については、安全点検を複数人で行う取組を継続して行い、リスクマネジメントとクライシスマネジメントを意識して行っていく。
- 「あいさつ」「きまりを守る」といった教育目標を常に意識し、褒め励まし認めることで児童の自己肯定感を高めるよう、学校全体で共通実践を図っていく。

小中学校関係者評価

- 授業の児童の話の聞き方が良かった。先生方が一生懸命に授業に取り組んでいる様子が見られ、活気のある授業だった。 ○
- 学校保健委員会や兼務授業などで、小中一貫教育の充実した取組ができていた。今後も、中一ギャップ解消のため、継続した取り組みを期待したい。 ○
- 学校ホームページや学校便り等で学校の教育活動について広く周知することで、保護者や地域との連携を深めてほしい。
- SNS等のトラブルも多くなってきているとのことなので、保護者、地域一体となった情報モラル教育を進めていただきたい。
- 放課後の遊び方について、校区の見回りの機会をつくるなど、生徒指導部を中心とした放課後の指導の充実を図ってほしい。